

話題 2 : 「モバイルを活用した地域づくり」(資料-4)

北海商科大学商学部観光産業学科 細野 昌和



【講師:細野】 今日の話提供の資料を見ますと、ソフトバンク(恵和ビジネス)が広範囲に網羅しており、重複を避けるためポイントを絞って「Wi-Fi」についてほんのさわりの部分を噛み砕いて分かりやすく説明したいと考えています。

本当に使える地域 ICT

現在まで日本中でIC、IT、ICTなどの情報化のキーワードでいろいろなプロジェクトが進められてきましたが、多くの場合、新しい技術で特殊な端末を使ってその地域だけのシステムを作っています。結果として汎用性がないために定着していません。たとえば地域電子マネーは日本中を席卷し多くの商店街で導入しましたが残っていません、1箇所だけ残っていたと思いますがほとんど消滅しています。現在、通信大手の特定の会社が多くの地域で観光情報システムの実証実験を行っていますが、これも実験として終わり定着しないと考えます。100件の実験で10件残るかどうかという実態です。定着させるキーワードは、今ある成熟技術を最大限に活用することで、すぐに使える、安い、将来性が無限であるとの観点が必要です。これらの仕組みも端末も技術もすでにありますので、敢えて新しい技術や特殊な端末を使って一部の地域だけのシステムを作る必要はまったくありません。

Wi-Fiの活用

初山別村では現実に残るシステムを作ろうとの観点で進めている流れであり、ぜひとも実現してほしいと思っています。先ほど役場の方からWi-Fiを使うと説明がありました。

Wi-Fiは世界ではいろいろな情報展開で使っていますが、わが国では今までビジネス中心で、また都市部で使われているもので地域の情報化のためにはほとんど活用されていません。

Wi-Fiというのは、インターネット網と端末を電波で接続する技術で、これは世界では当たり前の技術です。世界的な規模で同じ規格で活用しているものは廃れません。ただし都市部での活用も札幌でさえ、あちこちでバラバラに使っているため、隙間が多すぎて都市全体での活用は難しい状況です。ここ初山別では、規模的にも住居戸数的にも無線によって集約できる位置関係が見込まれ、まさに地方ならではのWi-Fiによる接続システムを展開できると思います。

地域情報の発信

外国人が日本に来て真っ先に言うのは「日本にはインターネットがない」ということです。海外ではかなりの地域で無料のインターネット接続が当たり前のように整備されています。空港、駅、観光施設等で問題なくつながりますが、日本では空港に着いてすぐに携帯端末で観光情報をとろうとしても取れない、つながりません。この解消を初山別村で実現してはかがかでしょうか。Wi-Fiを使ったその地域の観光情報発信を、海外はもちろん日本の観光客も期待しており喜ばれるのは間違いないでしょう。ぜひとも実現させるべきです。

地域にこそ必要な仕組み

情報化整備で良く言われることに「コンテンツ整備」がありますが、コンテンツよりも先に対応しなければならぬのが情報を得る手段で、手段をきちんと整備しなければコンテンツは入手できないわけです。手段としてのブロードバンドが都市部周辺で使えないという実態もあり、通信会社の収益性の関連から整備が滞っている状況です。都市部では集落・住宅が密集しているためブロードバンド整備は有線等により比較的簡単にできますが、集落の離れている地方では敷設がコスト的に難しい。この状況を打破するには、Wi-Fiによる整備を含めて、地方だからこそ可能な無線という通信手段の整備が重要事項です。Wi-Fiで地域を網羅することで極めて有用なシステムを組むことが可能になります。

Wi-Fiの優位性

(資料に基づき)公衆無線LAN(Wi-Fi)、パケット通信、赤外線通信、Bluetoothを検討すると、端末普及率、費用負担、規格、アクセス、通信速度、拡張性、次世代規格への対応等の比較で、結論としてWi-Fiが圧倒的に優位です。

(なお、話題の中で会場に設置されているFonルーター(Wi-Fi環境)にipadを接続して、実作動画画面(YouTube)を会場のみなさんに表示していただきました。また、この後も「観光」に関して観光客と観光事業者の立場によってまったくその意味が異なること、また人間の成長・生活と情報の因果関係など、貴重な事例を分かりやすく解説していただきましたが、紙面の都合上、割愛しました。詳細は資料-4で確認してください。)

(つぎに話題3として日本気象協会北海道支社、大島巖氏が気象情報について地域での利活用を説明しました。)

今ある成熟技術を最大限に活用

- ▶ 完成され成熟した技術⇒すぐに使える、安価、将来性が無限
新たに開発する方式、端末⇒普及も定着もしない
(例: 地域電子マネー、地域観光情報システムと端末など)
- ▶ 地方にこそ必要なインターネット
買物、エンターテイメントなど都市部の利便性を通信で実現
医療、福祉、防災への活用で快適で安心な生活
- ▶ 地方だからこそ無線
分散している居住区、住民を結び付ける
何時でもどこでもネットにアクセス
訪れる人々へ本当の「地域からの情報発信」
有線で行われている防災システム、テレメータ等の無線化

2

地域が受け入れる観光行動を見直す

- ▶ 知らずに使っている「観光」という言葉の二つの意味
観光行動＝主体的に人々が移動して情報を求める
観光事業＝観光行動をサポートする

観光は情報のグルメ

- 生きていくために「ご飯」が必要
⇒余裕ができるとグルメを楽しむ
- 生きていくために情報が必要
⇒余裕ができると観光を楽しむ

- ▶ 地域観光はマストツーリズムか
個人個人が地域の情報を探索する行動
地域での情報提供が不可欠

4

“その場でわかる、その場で使える地域情報” ---地域Wi-Fi利用イメージ



5